

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K03042

研究課題名(和文) キャリア発達のための社会性と情動の学習(SEL-8Career)プログラム開発

研究課題名(英文) Development of Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Career Development (SEL-8Career) program

研究代表者

小泉 令三 (Koizumi, Reizo)

福岡教育大学・大学院教育学研究科・再雇用教授

研究者番号：90195644

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、教育的援助ニーズを有する高校生の社会的自立に向けて、「高校生のための社会性と情動の学習」(Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Career Development)プログラムを開発し、その実践効果を検証した。プログラムは、25回分の50分授業の指導案と教材等を書籍として出版した。公立高等学校総合学科での統制校との比較による実践効果検討と、公立高等学校定時制1校での実践事例により、社会的能力の向上を部分的に確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学校を卒業しての社会的自立には、基礎学力、専門的知識、専門的技術のみでなく、基礎的・汎用的能力と称される、社会的能力(自己管理能力と対人関係能力など)が必要である。SEL-8Cプログラムは、高校生段階でこうした社会的能力を身に着けることを目的にした学習プログラムであり、特に教育的援助ニーズを有する高校生の場合には、卒業後の社会生活と社会的自立に重要な意味をもつ。今回の研究成果は、こうした取り組みに利用できる学習プログラムとして、社会的意義は大きいと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I developed and examined the effectiveness of the "Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Career Development: SEL-8C" program for the social independence of high school students with educational assistance needs. The program was published as a book with instructional plans, teaching materials, and resources for 25 50-minute lessons. The effectiveness of the program was examined in the integrated course of a public high school in a control group design, and in the part-time course of another public high school in a case study. Improvement of social abilities was partially confirmed in these studies.

研究分野：学校心理学

キーワード：社会性と情動の学習 社会性と情動のコンピテンス キャリア発達 キャリア教育 社会的能力 高校生 社会的自立

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) わが国の産業構造や就業構造の変化により、若者の社会的・職業的自立や学校から社会・職業への円滑な移行が必要とされ、キャリア教育の推進と充実が求められている(中央教育審議会、2011)。2017年公示の新学習指導要領では、小学校でも特別活動の中にキャリア教育の関連事項が記載されるようになり(文部科学省、2017)、「基礎的・汎用的能力」の育成を目指した教育実践が小～高校で実施されつつある。しかし、不登校や引きこもりあるいは家庭の事情等のために義務教育段階で学校不適應となり、高等学校の卒業や卒業後の社会的自立が困難な生徒や、また就業を希望しつつも未就職の若者に対する具体的で系統だった学習方法は提示されていない。

(2) キャリア教育において、従来、発達的变化の議論はあっても、具体的な教育方法の検討は不十分であったとの指摘がある(松本、2008)。特に、不登校や引きこもり等のために義務教育段階で学校不適應となり、高等学校の卒業や卒業後の社会的自立が困難な生徒や、また就業を希望しつつも未就職の若者について、具体的で系統だった学習方法は提示されていない。本研究は、この点について具体的な学習プログラムを開発して実施し、その効果を検討しようとするものであった。

2. 研究の目的

教育的援助ニーズを有する高校生や若年就業希望者を対象に、「社会性と情動の学習」(Social and Emotional Learning: SEL)の枠組みにもとづく学習プログラムを開発し、社会的能力の向上と社会的自立における効果を検討することが本研究の目的であった。このために、社会的能力の向上をねらいとした「キャリア発達のための社会性と情動の学習」(Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Career Development: SEL-8Career)プログラムを開発する。家庭や本人、その他の事情により、卒業後の社会的自立に困難が予想される高校生や、就労の機会を求めている30歳程度未満の若者を対象に、SEL-8Careerプログラムを実施しその学習効果を検証する。効果測定のために、自己評定式のキャリア発達社会的能力尺度を作成し、妥当性と信頼性を検討する。

3. 研究の方法

上記の目的に挙げた3点について、次のような方法で実施した。

(1) SEL-8Career プログラム開発

すでに論文として発表済みの能力概念とユニット(授業)構成案をもとに、高校で実施する学習プログラムの指導案と教材を作成した(50分×全25ユニット)。1年目は一部を試行し、それと並行して順次修正を行った。2年目は、就業支援企業等での実施を念頭に、短時間で実施できるように1つのユニットを分割したり簡略化したりして、ユニットをモジュール化(小区分化)した実施案を作成した。その後も、適宜修正を行った。

(2) SEL-8Career プログラムの実施

本研究で学習プログラムの実施対象としたのは、大きく次の2群である。

卒業後の社会的自立に困難が予想される高校生

具体的には、定時制課程あるいは全日制課程に在籍し、本人・家庭・その他の事情によって義務教育段階で学校不適應を経験していたり、あるいはその経験がなくても、高等学校卒業後の社会的自立が危惧されたりする高校生であった。在籍する生徒全員を対象とした。

就労の機会を求めている30歳程度未満の若者

高校を卒業後に就労を希望しつつもそれが達成されていないか、あるいは達成のために支援を要する若者で、このプログラムの受講を希望した者である。これには、大学や専門学校の在籍者や、それらを卒業した者も含める。

(3) キャリア発達社会的能力尺度作成と効果測定

尺度を作成し、構成概念妥当性と信頼性(一貫性)を検討した。これを用いて、プログラムの効果測定とともに、他の社会的自立に関する能力概念や教師評定、自尊心との関連を検討した。

4. 研究成果

(1) SEL-8Career プログラム開発

このプログラムでは、表に示す8つの社会的能力を育成するために、8つの学習領域(A 基本的生活習慣、B 自己・他者への気づき・聞く、C 伝える、D 関係づくり、E ストレスマネジメント、F 問題防止、G 環境変化への対処、H ボランティア)を設定し、全25回分の授業に該当するユニットを作成した。各ユニットは、実践の状況によって複数回の短時間の学習に分けられるように3分割(15～20分×3)してある。指導案、学習プリント、資料を書籍として出版した(小泉・伊藤・山田、2011)。また、学習プリント、資料、掲示用ポスター、キャリア発達社会的能

表 SEL-8Career で育成を図る社会的能力（小泉，2011）

能力		説明
基礎的社会的能力	自己への気づき	自分の感情に気づき，また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力
	他者への気づき	他者の感情を理解し，他者の立場に立つことができるとともに，多様な人がいることを認め，良好な関係をもつことができる力
	自己のコントロール	物事を適切に処理できるように情動をコントロールし，挫折や失敗を乗り越え，また妥協による一時的な満足にとどまることなく，目標を達成できるように一生懸命取り組む力
	対人関係	周囲の人との関係において情動を効果的に処理し，協力的で，必要ならば援助を得られるような健全で価値のある関係を築き，維持する力。ただし，悪い誘いは断り，意見が衝突しても解決策を探ることができるようにする力
	責任ある意思決定	関連する全ての要因と，いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し，意思決定を行う。その際に，他者を尊重し，自己の決定については責任をもつ力
応用的社会的能力	生活上の問題防止のスキル	適切なアルコール・タバコ飲用，薬物乱用防止，病気とけがの予防，健全な家庭生活，運動の習慣化，暴力やけんかの回避，精神衛生の促進などに必要な力
	人生の重要事態に対処する能力	就職・転職・異動などの環境移行への対処，家族内の大きな問題（結婚や死別など）への対応，緊張緩和や葛藤解消，支援要請（サポート源を探し，アクセスする）などに関する力
	積極的・貢献的な奉仕活動	ボランティア精神の保持と向上，身近な人助けと自発的関与に関する力

力尺度（後述）とその集計プログラムをホームページ上で無料公開し，希望者が自由にダウンロードして使用できるようにした（<http://www.sel8group.jp/>）。

(2) SEL-8Career プログラムの実施

公立高等学校総合学科での実施

本研究で注目する教育的援助ニーズを有する生徒が一定割合在籍していることが判明した高等学校総合学科で，まず一つの学年で SEL-8Career プログラムを事例研究として試行した。

その後，次の年度には全学年で教育課程に位置付けて実施した。当プログラムを実施していない統制校との比較の結果，特に学習時間数を確保できた1年生で，例えば社会的能力全般の自己評価が好ましい方向に変化していた（図参照）。規範行動のいくつかの側面や学習面の適応感でも同様の結果が得られた。今後のより明確な効果を得るための継続した実践方策についても考察できた。

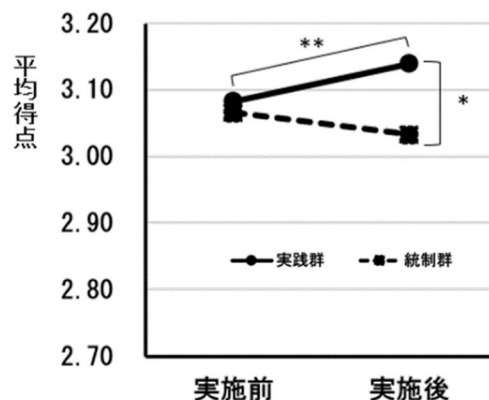


図 社会的能力全般の自己評価得点

公立高等学校定時制課程での実施

一つの学年での試行ののち，全4学年で実施した。当初考えていたプログラム内容を，生徒の実態に合わせて修正する必要があるユニットがあった。また，スキル習得のためのロールプレイの実施に抵抗を感じる生徒がいるなどの想定外の課題があった。しかし，例えば ICT の利用によりタブレットでの文字入力を介しての方法に切り替えるなどの代替手段などにより，個々の参加者のニーズに応じた実践の成果を事例として確認することができた。

若年就業希望者への支援を行う企業での実施

当初の計画では，就業を希望しつつも未就職の30歳程度未満の若者が本研究の主要な対象者に含まれていたが，計画通りには実施できなかった。すなわち，1・2年目にはこうした就業希望者への支援を行う企業と連携して，少人数での試行を実施して，適切なセッション数，内容，実施方法，評価方法等について資料を収集することができた。しかし，3年目以降，新型コロナウイルス感染症予防のためにプログラム実施対象者を予定通りに募集することができないまま，研究実施期間を終了せざるを得なかった。

(3) キャリア発達社会的能力尺度作成と効果測定

この尺度は，高校生および若年就業希望者等を対象に，キャリア発達面における社会的能力を測定するための自己評定式尺度である。SEL-8Career プログラムと同じ8つの社会的能力概念

(表参照)にもとづくもので、24項目で構成され、4段階で回答を求めるようになっている。この尺度の妥当性と信頼性を確認することができた。なお、分析の結果、高校1年から3年になるにつれて合計得点が上昇する傾向と、女子が男子よりも高得点となる傾向が見られた。尺度作成のプロセスと分析結果等は論文で発表し(小泉,2018),また上記(2)の実施の際の効果測定に使用した。

<引用文献>

小泉令三(2021) キャリア発達社会的能力尺度(SEL-8Career 尺度)の作成 福岡教育大学紀要 第4分冊 教職科編, 70, 175-183.

小泉令三・伊藤衣里子・山田洋平(2021) 高校生のための社会性と情動の学習(SEL-8C) キャリア発達のための学習プログラム ミネルヴァ書房

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 小泉令三	4. 巻 70
2. 論文標題 キャリア発達社会的能力尺度（SEL-8Career尺度）の作成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福岡教育大学紀要（第4分冊）	6. 最初と最後の頁 175-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小泉令三	4. 巻 10
2. 論文標題 「社会性と情動の学習」(SEL)と教育的公正 - アメリカでのCASEL SEL-EXCHANGEの資料をもとに -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）年報	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村上敏之・小泉令三	4. 巻 9
2. 論文標題 定時制高校生対象の「キャリア発達のための社会性と情動の学習（SEL-8Career）プログラム」の開発と試行	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報	6. 最初と最後の頁 123-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 小泉令三
2. 発表標題 若年就業希望者のための社会的能力向上ワークショップ開発 社会性と情動の学習プログラム「SEL-8Career」の試行
3. 学会等名 日本キャリア教育学会 第42回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤依里子・小泉令三
2. 発表標題 高校1年生を対象とした「SEL-8Career」の作成と実践
3. 学会等名 日本SEL研究会 第11回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Reizo Koizumi
2. 発表標題 Perceived social-emotional competence in career development and school adjustment of Japanese senior high school students
3. 学会等名 41st Annual Conference of the International School Psychology Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上敏之・小泉令三
2. 発表標題 定時制高校生の社会的自立を目指す「社会性と情動の学習(SEL-8Career)」の試行
3. 学会等名 第40回国際学校心理学会 ISPA2018Tokyo日本語プログラム (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reizo Koizumi
2. 発表標題 Development of Social and Emotional Competences Scale of Eight Abilities in Career Development: SEC-8Career Scale
3. 学会等名 International Convention of Psychological Science 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小泉令三・伊藤衣里子・山田洋平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 200
3. 書名 高校生のための社会性と情動の学習(SEL-8C)：キャリア発達のための学習プログラム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

SEL-8Careerプログラムの学習プリント、資料、掲示用ポスター、キャリア発達社会的な能力尺度とその集計プログラムは、次のホームページに掲載されている。 http://www.sel8group.jp/

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------